

2-2 協会・支部・会員企業の活動事例

令和6年度 建設業社会貢献活動中央行事で顕彰した事例のうち、前項で紹介した事例の他、ここでは次の38の社会貢献・SDGs活動事例と9の広報活動事例を紹介します。

社会貢献・SDGs 活動事例

No.	都道府県	協会・企業名	活動内容
1	佐賀県	一般社団法人 唐津建設業協会	豪雨災害における応急復旧活動及びCSF（豚熱）防疫活動
2	山梨県	一般社団法人 峡北地区建設業協会	令和5年7月の豪雨における災害復旧活動
3	新潟県	一般社団法人 新潟県建設業協会	令和6年能登半島地震における災害復旧支援活動
4	富山県	一般社団法人 富山県建設業協会	令和6年能登半島地震における災害復旧支援活動
5	京都府	京都府建設業協会 綾部支部	令和5年8月台風第7号による発生した豪雨における災害復旧支援活動
6	奈良県	一般社団法人 吉野建設業協会	令和5年12月に国道169号で発生した土砂崩れにおける災害復旧活動
7	岐阜県	井戸建設 株式会社	豪雨災害における応急復旧活動
8	岐阜県	有限会社 林土木	豪雨災害における応急復旧活動
9	茨城県	一般社団法人 茨城県建設業協会 水戸支部	鳥インフルエンザ防疫活動
10	群馬県	一般社団法人 群馬県建設業協会 吾妻支部	鳥インフルエンザ防疫活動
11	埼玉県	一般社団法人 埼玉県建設業協会 飯能支部	鳥インフルエンザ防疫活動
12	佐賀県	一般社団法人 藤津建設業協会	鳥インフルエンザ防疫活動
13	千葉県	一般社団法人 千葉県建設業協会	実動訓練・防災フェスタへの参加で防災の取組をPR
14	山梨県	一般社団法人 市川建設業協会	災害時支援協力による合同防災訓練
15	京都府	株式会社 巖建設	地域に対する防災備蓄品の贈呈
16	富山県	株式会社 深松組 北陸支店	自社の小水力発電の売電収入による老朽化した水道設備の更新
17	兵庫県	株式会社 河合塗研	神戸三田SDGsフェスタの開催
18	青森県	一般社団法人 青森県建設業協会 中弘支部	土淵川草刈りボランティア
19	長野県	長野県建設業協会 飯山支部	観光地へのアクセス道路の沿道美化活動
20	北海道	丸彦渡辺建設 株式会社	さっぽろふるさとの森づくり植樹・育樹活動
21	北海道	株式会社 櫻井千田	継続的な道路の美化清掃活動
22	岩手県	有限会社 新江建設	桜つつみ草刈り活動～多年に亘っての草刈り作業～
23	宮城県	日広建設 株式会社	継続的な道路清掃活動

No.	都道府県	協会・企業名	活動内容
24	山梨県	株式会社 桑原組	御伊勢山の維持管理作業
25	岐阜県	青協建設 株式会社	継続的な道路の美化清掃活動
26	富山県	近藤建設 株式会社	掃除DEあいさつ運動
27	富山県	株式会社 関口組	海岸清掃ボランティア活動
28	埼玉県	一般社団法人 埼玉県建設業協会 さいたま支部ほか10支部	継続的な献血活動
29	山梨県	一般社団法人 身延建設業協会	継続的な献血活動
30	山梨県	一般社団法人 富士・東部建設業協会 青年部会	児童養護施設の整備活動
31	山口県	山口県建設業協会 長門支部	継続的な献血活動
32	北海道	北土建設 株式会社	福祉除雪活動
33	福島県	みほた建設 株式会社	地域小学校のプール清掃ボランティア活動
34	山梨県	昭和建設 株式会社	小中学校の就学環境〈校庭〉整備
35	愛知県	株式会社 加藤建設	地元チャリティーイベントでの地域貢献活動
36	福島県	石橋建設工業 株式会社	SDGs推進モデル工事
37	鹿児島県	株式会社 グリーンテック	地域の環境美化ボランティア
38	神奈川県	一般社団法人 神奈川県建設業協会 小田原支部	関東大震災100年「震災パネル展・震災記念碑設置」

広報活動事例

No.	都道府県	協会・企業名	活動内容
39	岐阜県	一般社団法人 郡上建設業協会 青年会	建設業イメージアップへの出前講座の実施
40	北海道	株式会社 西村組	地域の小学生を招いた現場見学会
41	福島県	株式会社 小野中村	市内中学校での出張職場体験学習会の開催
42	山梨県	金山土建 株式会社	地域小学校での建設機械乗車体験
43	長野県	高木建設 株式会社	「人権と平和の花・カンナ」の植栽を通じた地域建設業からダイバーシティへの取組み
44	富山県	株式会社 斉藤組	地域の子どもたちに建設業について知ってもらう機会を提供
45	山口県	住吉工業 株式会社	中・高校生への建設業の魅力を伝える出前授業「建設ゼミナール」の実施
46	新潟県	一般社団法人 新潟県建設業協会 十日町支部	除雪PRポスターの作成・配布
47	岡山県	岡山県建設業協会 岡山西支部	マンガ冊子「建設の仕事」の発刊

事例

1

災害復旧・防疫活動

佐賀県

豪雨災害における応急復旧活動及び CSF（豚熱）防疫活動

（一般社団法人 唐津建設業協会）

令和5年6月28日から続いた梅雨前線の活動に伴い、全国的に大雨による被害が発生していたところ、7月10日から佐賀県・福岡県・大分県で線状降水帯が発生し、各地で大きな被害が生じた。

佐賀県内では、唐津市・佐賀市・神埼市・鳥栖市等で土砂災害や冠水被害が発生。その中でも唐津市の浜玉地区では集落で大規模な土石流が発生し、3名の尊い命が失われた。

また、公共土木・農地等の被害額は併せて約360億円に上り、被害額としては過去最大となった。

唐津建設業協会では6月末から断続的に大雨が降っていたこともあり、災害協定に基づき継続的にパトロールなどを実施していたが、線状降水帯の発生で短期間に大量の雨が降ったことで、管内各所で被害が発生し応急対応に追われた。土石流が発生した浜玉地区の集落では、たまたま会員企業の従業員の自宅が被災箇所近くにあり、指示を待つことなく工事で使用していた重機を使い、いち早く災害対応を行っていた。これも永年、災害対応を行っている会員企業の従業員であればこそこの対応といえる。

その後も引き続き会員企業は各所で応急対応を行い、8月後半にはとりあえずの対応が落ち着きを見せていた。

災害対応が落ち着いてきていた8月30日。九州で初となる豚熱が唐津市で2例続けて発生した。

1例目は約450頭で30日未明から埋却場所の確認等の準備作業を進め、夜から殺処分と掘削作業を開始していたところへ、2例目の発生報告があり、こちらが約1万頭と県内でも最大規模の農場であった。

唐津建設業協会としても1例目の埋却作業と2例目の埋却地の掘削作業を並行して行いつつ、人員配置や作業体制の確立に忙殺されることとなった。そんな中でも1例目の埋却作業は9月1日に終了し、2例目の作業に集中する体制は出来たが、作業終了時期は見通せない状況であった。

通常、佐賀県建設業協会の防疫活動では、埋却を発生支部、消毒ポイントを他支部が応援するという形で対応していたが、今回は頭数が多すぎて単一支部が総動員しても人員が足りないため、初めて、埋却作業にも他支部からの応援を派遣した。埋却作業・農場の消毒等の防疫作業が終了したのは9月20日。消毒ポイントの閉鎖は10月19日であった。

発生から実に51日間にわたる長い防疫活動となった。

唐津建設業協会は、7月の大雨災害への対応から引き続き、豚熱の対応に追われ、まさに昼夜を問わず災害対応・防疫対応に全力を尽くした。この間の会員企業並びに従業員、ご家族の皆様のご労苦には、ただただ頭の下がる思いである。



九州北部豪雨災害 応急復旧作業



豚熱防疫 R5.9.21 埋却作業完了

事例
2

災害復旧活動

山梨県

令和5年7月の豪雨における災害復旧活動（一般社団法人 峡北地区建設業協会）

令和5年7月20日、北杜市大泉町の集中豪雨により、県道（主）北杜富士見線の北杜市大泉町谷戸から北杜市大泉町西井出地内で土砂崩落・橋台の護岸損傷・災害復旧工事請負会社の現場事務所1棟転倒・車両2台が土砂に巻き込まれた（人員無事）。

翌日山梨県からの要請により、会員企業数社による土砂・流木等の撤去・搬出、大型土のうの設置を全面通行止めで実施し8月上旬に全面開通となった。

事例
3

災害復旧活動

新潟県

令和6年能登半島地震における災害復旧支援活動（一般社団法人 新潟県建設業協会）

令和6年1月1日に発生した能登半島地震について、北陸地方整備局から災害協定に基づき、1月1日に災害対策車両の派遣、1月9日に道路啓開の支援要請があった。

- ・1月2日から災害対策車両として、断水被災地に給水車、夜間緊急工事に照明車を派遣した。
- ・道路啓開支援は1月11日から2月6日まで、能登地域の孤立集落解消のため、車の往来が安全にできるよう道路段差の解消、2月13日から土砂等除去する緊急復旧支援を行った。
- ・新潟県建設業協会では、必要となる資機材はすべて自前で持ち込み、宿泊も車中泊などで、仮設工事用トイレも持参して、道路啓開支援を行った。



事例
4

災害復旧活動

富山県

令和6年能登半島地震における災害復旧支援活動（一般社団法人 富山県建設業協会）

令和6年1月1日に発生した能登半島地震に、災害協定に基づく自主パトロール（道路、海岸等）や1月以降数度にわたり、北陸地方整備局から災害対策用機械の派遣、及び道路啓開作業支援のため富山県建設業協会会員の出動の要請等があった。

(1) 給水、排水、照明（電源供給）の支援

- ①かほく市、能登町、輪島市の避難所等での給水支援（27社72名、給水車1台）
- ②七尾市ポンプ場での排水作業（8社27名、排水ポンプ車1台、照明車1台）
- ③能登町での雨水排水作業（2社6名、排水ポンプ車1台）
- ④珠洲市、輪島市の避難所等の照明（電源供給）（4社9名、照明車1台）
- ⑤珠洲市の土砂崩れ現場での夜間作業（1社4名、照明車2台）【休止】

(2) 道路啓開作業の支援

- ①能登町、珠洲市の市町道の道路啓開作業（2泊3日、39社215名、車両・機械178台）



道路啓開作業(能登町)



道路啓開作業(珠洲市)

事例
5

災害復旧活動

京都府

令和5年8月台風第7号による発生した豪雨における災害復旧支援活動

(京都府建設業協会 綾部支部)

令和5年台風第7号は、8月15日 午前5時前に紀伊半島に上陸。

8月14日23時20分には、中丹地域3市（綾部市、舞鶴市、福知山市）に土砂災害警戒情報、相次いで記録的短時間大雨情報が発表された。

綾部付近では次々と雨雲が発生し、綾部市西部地域においては、長時間にわたり降り続いた集中的豪雨により家屋の浸水や山腹崩壊が発生し土砂等の流出により家屋が倒壊するなど甚大な被害が発生した。

建設業協会綾部支部では災害応援協定（平成23年）に基づき綾部市からの緊急要請を受けて、直ちに被災地を訪問し被災状況を確認した。被災地はこれまでに経験したことがない様な土砂の流出や流木で覆われ被害の大きさに驚愕した。そこで、すぐに行政機関と連携し各会員企業が迅速かつ的確に緊急作業を実施した。こうした対応により住民の安全で安心な暮らしの確保と二次災害の防止が図れたと考えている。

同年12月には、今回の災害復旧への支援活動に対して綾部市長 山崎善也様より感謝状が授与された。



被災状況



被災状況



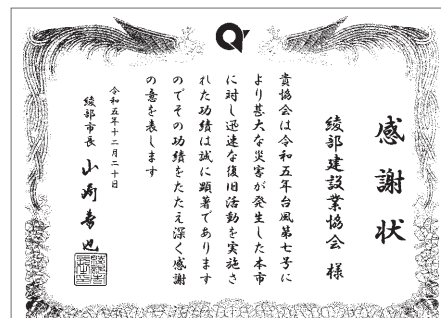
被災状況(関係機関立会い)



災害対応



災害対応



事例
6

災害復旧活動

奈良県

令和5年12月に国道169号で発生した土砂崩れにおける災害復旧活動

(一般社団法人 吉野建設業協会)

令和5年12月23日夜、奈良県吉野郡下北山村で発生した土砂崩れは国道169号を走行中の車2台を飲み込み、1名が死亡した。奈良県吉野土木事務所から応急対応の要請を受けて、一般社団法人吉野建設業協会が迅速対応をした。



崩土除去作業の状況 上池原地内

事例
7

災害復旧活動

岐阜県

豪雨災害における応急復旧活動 (井戸建設 株式会社)

令和5年6月2日の多治見市内の集中豪雨により笠原川（大畑橋 上流左岸側・下流右岸側）N=2箇所での護岸河床部が洗堀され、護岸が一部崩壊し、堤防道路まで影響を及ぼした。岐阜県多治見土木事務所との災害協定により要請を受けた。多治見建設業協会は会員である井戸建設に対して、災害拡大を防止する措置をとるように指示した。

特に上流部の堤防道路は地元住民の生活道路であり、う回路がないことと、いつ道路が崩壊してもおかしくない状況であったため、早期応急復旧が急務であった。工法について同日中に多治見土木事務所と協議し、袋詰め玉石、大型土のう積にて応急復旧することを決定し、被災してから上流部では3日、下流部では6日で応急復旧を終えた。



復旧作業の様子

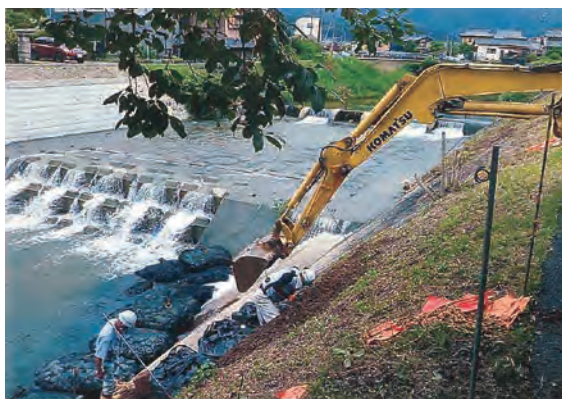
事例
8

災害復旧活動

岐阜県

豪雨災害における応急復旧活動（有限会社 林土木）

令和5年6月2日の岐阜県土岐市内の集中豪雨により、妻木川左岸落差工の下側で豪雨のため、河床が洗掘され、空石積及び根継コンクリートの一部区間が大きく吸い出されて穴が空いていた。岐阜県多治見土木事務所との災害協定により要請を受けた多治見建設業協会は、会員である林土木に指示して、対応させた。まずは、通行人が近寄らないよう、トラロープ柵を設置。災害現場の洗堀箇所には袋詰め玉石を設置した。空洞箇所には割碎石を詰め込んで、その後、大型土のうを設置して法面を保護した。早期対応により吸出し箇所を最小限におさえ、道路までの浸食を防いだ。



復旧作業の様子

事例
9

防疫活動

茨城県

鳥インフルエンザ防疫活動（一般社団法人 茨城県建設業協会 水戸支部）

令和5年11月27日、笠間市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザの感染が確認された。

茨城県との「特定家畜伝染病発生時の防疫業務に関する協定」に基づき、茨城県建設業協会 水戸支部 土木委員会6社、延べ31名の作業員を防疫支援活動のため現地に派遣した。処分鶏の埋却処理作業、鶏糞及び飼料等汚染物品の埋却処理、農場内の消毒作業を実施し、11月27日～12月3日までの7日間に、7万羽の殺処分を完了させた。



作業前打ち合わせ

事例
10

防疫活動

群馬県

鳥インフルエンザ防疫活動（一般社団法人 群馬県建設業協会 吾妻支部）

令和5年12月31日、高山村内の養鶏場から群馬県に鳥インフルエンザの疑いの通報があり、県と国による検査を経て令和6年1月1日に陽性が確定。群馬県と群馬県建設業協会は「特定家畜伝染病発生時の防疫業務に関する基本協定」、「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する協定」及び「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する細目協定」を締結しており、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。

当日から殺処分、埋却場所での仮囲いと掘削を開始し、従事企業累計15社、作業員延べ130名を動員。1月12日に作業を完了した。

吾妻支部では、社会的責任において群馬県との協定に基づき、会員企業は年末年始休業返上で懸命な防疫作業（24時間3交代）に従事した。群馬県建設業協会は、災害対応組織力の強化を掲げており、今回の鳥インフルエンザ発生に対する防疫作業においても、会員企業は組織的に連日連夜作業に取り組んだ。

こうした取り組みが認められ、令和6年3月18日、群馬県知事から協会本部及び群馬県農村整備建設協会に、群馬県農政部長から吾妻支部及び群馬県農村整備建設協会吾妻分会にそれぞれ感謝状が贈られた。

※感謝状の日付は3月13日



埋却状況



石灰散布状況



作業終了時のブルーシート設置



群馬県農政部長から吾妻支部に感謝状贈呈

**鳥インフル防疫完了
24時間3交代で従事
群馬建設協吾妻支部**

群馬県建設業協会（青柳剛会長）の吾妻支部（池原純支部長）が高山村の採卵鶏農場で進めていた高病原性鳥インフルエンザ防疫作業が9日に完了した。同支部内の下島工業店、須藤工業店、斎藤工業の3社延べ122人（11日時点）は新年早々、24時間3交代制で防疫作業に従事した。写真、県や自衛隊による殺処分規模は32万1747羽。

2023年12月31日、山本一太知事から青柳会長に防疫作業の協力依頼があり、支部と建協がそれぞれ対策本部を設置した。

3社による24時間体制は、1日午後6時の埋却溝本掘削開始から、3日午後8時に雨

み、予定より1日早い9日に無事故無災害で防疫作業が完了した。第1埋却溝には鶏1259袋、えさ50袋、第2埋却溝には鶏355袋、えさ145袋、物品175袋を埋却した。今後は立入防止柵の設置や、敷き鉄板・重機の消毒搬出などを進め、15日に全作業が完了する予定だ。

天で中止するまで続いた。その後は1日1社で埋却作業などを進め、7日の休工期を挟

R6.1.12 建設通信新聞

事例 12

防疫活動

佐賀県

鳥インフルエンザ防疫活動（一般社団法人 藤津建設業協会）

佐賀県では平成27年に初めて鳥インフルエンザが発生して以来、平成29年、令和4年に引き続き、4例目。令和5年度では全国で初めての発生となった。

また、8月に九州で初めての豚熱が発生したため、県内で2回目の防疫活動となった。

今までの発生時には全て埋却処分を行っていたが、今回発生した農場が事前に設定していた埋却地では有明海干拓地のため1メートルほど掘削すると海水が出るため、埋却での処分を断念。急遽、初めての焼却処分が選択された。

焼却処分となったものの、当初鹿島港付近に国の移動式焼却炉を設置して作業をする予定であったが、市街地に近いことや、有明海特産のノリ漁期に重なるため、港での焼却も断念。またしても急遽、鹿島市外の産業廃棄物処理施設まで搬送して作業することとなった。

藤津建設業協会は発生当初から関係機関等と連携しつつ、埋却予定地の現地確認や試掘、消毒ポイントの設置などを行った。焼却処分へと変更されてからは消毒ポイントの運営と並行して、殺処分に使用した防護服等の埋却作業も実施した。

今回の処分数は、成鳥約38,000羽、卵約120,000個、密閉容器約5,300個を使用した。また、建設業協会の人員は延べ約200名であった。

今回、佐賀県では初めて焼却処分が行われたが、毎年、理事会の際に佐賀県庁の担当部局から鳥インフルエンザの現状と対応についての説明と意見交換を行っている。

今年は11月24日の午前中に理事会を開催。その際、藤津建設業協会の栗山会長から、「以前から懸念を表明しているが、有明海の干拓地付近の農場で発生した際には、埋却予定地を掘削した場合水が出る場所が多く、通常の埋却作業は出来ない。掘削しても問題ない場所を設定するようにしてもらわないと、いざ発生した時に後手を踏むようになる」と発言されていた。

まさにその日の午後のことであり、これを教訓に適切な埋却場所の選定、あるいは農場ごとに埋却・焼却の区分を行っておくことが必要であると感じたところである。



防護服等の埋却掘削作業



防護服等の埋却完了

千葉県
実動訓練・防災フェスタへの参加で防災の取組をPR

(一般社団法人 千葉県建設業協会)

千葉県建設業協会は、令和5年9月2日に千葉県我孫子市の川村学園女子大学にて開催された、九都県市合同防災訓練に防災機関の一つとして参加した。九都県市合同防災訓練は、大規模被害が懸念される「東海地震」や「首都直下地震」に代表される大地震発生時、各行政機関や各防災機関が連携した救出救助や避難所運営など実践的な訓練を実施するものである。また、減災への備えや発災時の対応に関する啓発、体験及び訓練の機会を設けることで、自助・共助・公助の連携、繋がりを強化し、地域の防災力を向上させ、その被害を最小限にとどめるため、千葉県や千葉市などをはじめとした九都県市が8月30日～9月5日の防災週間内で実施しているものである。

実動訓練では、訓練会場がある我孫子市を震源とする大地震が発生し、多数の建物が倒壊し、道路損壊や道路の寸断などの交通障害が発生しているという想定のもと、参加した行政や各団体が救出救助実動訓練を実施し、多くの観客がその様子を見学していた。

千葉県建設業協会ではそのうち道路啓開作業を担当し、東葛支部の会員が、県から要請を受け、道路を塞いでいる瓦礫等を重機で撤去し、救助車両及び孤立地域などへの進入経路確保を想定し、道路管理者と連携しスムーズに実施した。

また、会場内では「自らの命は自ら守る」、「自分たちの地域は地域のみんで守る」という自助・共助の意識向上のために防災フェスタが実施された。これは平時からできる対応や発災時の応急処置など、減災への備えや災害発生時の対応方法などを紹介し、地域全体での防災力を向上させることを目的として、防災関係機関による啓発コーナーの設置、災害ボランティアの活動紹介などの啓蒙展示を中心に行っているものである。

千葉県建設業協会は、啓発コーナー内で、地域建設業が地域の防災・減災活動に貢献していることについて、子供や保護者に理解してもらおう一助となる催しとして、主に子供を対象とした、ミニ建機操作体験、防災用品の配布及びパネルを使用した活動紹介を行った。時には行列ができるほどで、総勢約120名の子供に体験してもらったことから、その様子を見守る保護者に対しても、子供の楽しむ姿を通じて地域建設業に関する重要性についてPRも行えた。

今回の合同防災訓練の実動訓練、防災フェスタに参加したことを通じて、防災意識の向上だけでなく、地域建設業が「地域の安全・安心の担い手」として、大きな役割をもっていることを、実際の重機が稼働し作業を行うという迫力のある姿と、子供にはミニ建機操作体験で楽しくその重要性を大きくPRすることで広く貢献できた。



ホイールローダーと人海戦術による実動想定訓練



啓発コーナーは子供に大人気を博す

地域活性化への取組

事例
16

富山県

自社の小水力発電の売電収入による老朽化した水道設備の更新（株式会社 深松組 北陸支店）

深松組創業者ゆかりの地である朝日町笹川地区は上水道が整備されておらず、地区住民による簡易水道で水道を使っているが、その簡易水道が設置から40年以上経過し、老朽化しているため、更新工事が必要となった。

しかしながら、笹川地区だけでは更新工事費が賄えないことから、深松組から小水力発電の売電収入を工事費にあてて地区の水道を守ることを提案し、実現したものである。発電所周辺の草刈りなどの維持作業は、地区の人々と契約し担ってもらっている。

本事業は令和3年から工事に着手し、地区の人と連携・協力して事業を進めている。

宮城県仙台市にある本社もこの事業に大きく関わっているが、地区の人との連携などは北陸支店が行っている。



小水力発電所

事例
17

兵庫県

神戸三田 SDGs フェスタの開催（株式会社 河合塗研）

神戸三田SDGs推進実行委員会は、令和2年に兵庫県内でSDGsへの取り組みを行う企業7社（河合塗研含む）で発足した任意団体である。

令和3年から持続可能な社会への取り組みを一企業として実践できるよう、飲食店や小売店で利用できる「地域応援プログラム」の発行支援、地元工務店が中心となり「端材で作る作品コンテスト」の開催、また「SDGsフェスタ」の開催等、様々な活動を行っている。

今回の活動は、国連で定められている17の開発目標であるSDGsへの取り組みを推進し秋を楽しみながら学ぶをコンセプトに会場し、ブースを利用するだけでSDGsへの取り組みにつながるイベントとした。

なお、今回は、兵庫の食と暮らしの魅力を再発見し「住み続けられる街」をテーマに開催した。

来場者数：約12,000人

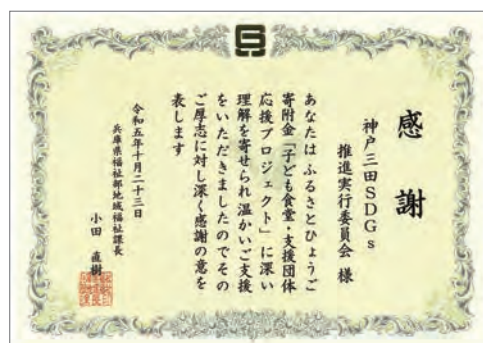
今回、プログラムの一つとして県産食材を使ったグルメブースを開設し、出店した18店舗に呼びかけ、売上金等から寄付を集め、兵庫県がふるさと納税制度を活用して展開する「子ども食堂支援」のプロジェクトに10万円を寄付し、兵庫県より感謝状を受けた。

【神戸三田SDGs推進実行委員会】

株式会社河合塗研／株式会社コーヨー／株式会社マツダオートザム北神／株式会社コタニ住研／トヨタカローラ神戸株式会社／吉田木材株式会社／株式会社JokerEnterprise



開催風景（イオンモール神戸北にて）



寄付への感謝状（兵庫県福祉部地域福祉課長より）

事例
18

青森県
土淵川草刈りボランティア（一般社団法人 青森県建設業協会 中弘支部）

「土淵川草刈りボランティア」は中南地域県民局地域整備部、青森県建設業協会 中弘支部及び青年部会が合同で平成21年度より毎年実施しており、令和5年度で14回目を迎えた。

土淵川は弘前市の中心地域にあり、遊歩道なども整備されていることから、地域住民をはじめ観光客の方々にも親しみのある川である。しかし、夏季になると遊歩道も見えないほどの高さの雑草が生い茂り景観を損ねている。また、近隣には小中学校もあり、防犯にも支障をきたしている。こうした状況を解消するため、土淵川（野田橋～徒橋までの約1km）の景観アップ及び近隣学校の子供たちの安全を守ることを目的に草刈ボランティアを実施している。

また、活動中には近隣住民から「お疲れさま」、「きれいにしてくれてありがとう」など温かい声をかけていただいたり、差し入れのジュースをいただいたり、近隣住民にも建設業に対するイメージアップにつながっている。



草刈り風景



陸奥新報 R4.6.11

事例
19

長野県
観光地へのアクセス道路の沿道美化活動（長野県建設業協会 飯山支部）

平成27年より長野県北信建設事務所と長野県建設業協会 飯山支部との協働で道路愛護活動の一環として、春と秋の年2回、北信地域を訪れる観光客を温かく迎えるために観光地へのアクセス道路を中心に沿道美化活動を実施。

平成29年からは支部会員も加入している飯建除雪協議会のメンバーも加わり、今年度で10年目を迎える。

国道117号、292号の約21.4kmを参加者128人が6班・6コースに分かれて、拾ったごみの袋を伴走させている軽トラに積み、午前中一杯かけて収集した各班のごみを建設事務所に集め、最後は支部会員のトラックに積み込み焼却場にて処分している。

令和5年度秋の収集は可燃ごみ90kg、不燃ごみ30kgを分別焼却。



沿道美化活動の様子

事例
20

北海道

さっぽろふるさとの森づくり植樹・育樹活動（丸彦渡辺建設 株式会社）

丸彦渡辺建設では、平成23年8月30日「さっぽろふるさとの森づくり」を展開している札幌市手稲区の山口緑地において、森づくり活動に取り組んでいくことを柱とした連携協定を締結している。平成23年より3年間にわたり計約1800本の苗木を植樹。それ以降、現在に至るまで毎年育樹活動を継続的に実施し、維持管理を行いながら森づくり活動を進めている。

〈植樹活動〉

- 1回目の植樹活動（平成23年10月2日）
社員と家族計約50名が参加し、ミズナラ他5種類の525本の苗木を植樹。
- 2回目の植樹（平成24年10月21日）
社員と家族計約40名が参加し、イタヤカエデやハルニレ等の苗木651本を植樹。
- 3回目の植樹（平成25年9月29日）
社員と家族計約35名が参加し、イタヤカエデやハルニレ等の苗木600本を植樹。

〈育樹活動（直近3年間）〉

- 令和3年5月18日
新入社員他有志社員計20名が参加。
- 令和4年5月17日
新入社員他有志社員計17名が参加。
- 令和5年5月22日
新入社員他地域貢献推進員計23名が参加。



維持管理(下枝払い)の様子



北海道通信 R5.5.24

豊かな森へ願い込めて
丸彦渡辺建設 枝払、除伐

事例 21

北海道 継続的な道路の美化清掃活動（株式会社 櫻井千田）

櫻井千田では、平成20年4月から第一月曜日を除く毎週月曜日（雨天決行・祝日は次の日）の朝8:30から20分間、会社前の国道12号線のゴミ拾いを行っている。

最初はセーフティラリーで完走出来なかった人の罰則で始めたことだった、「それなら会社に居る人全員で」と、いう意見で始めた活動である。会社から奈井江温泉（閉館）までの両側とその周辺の道道、町道や国道12号線、道道赤平奈井江線、道道砂川奈井江美唄線、町道東1線、町道8号線に至るまで、その距離全5,750mを清掃している。令和5年は雪が降る10月末までの7ヶ月間で、計24回実施した。

近所の方から「櫻井さんきれいにさせて頂いてありがとう」と声を掛けてくださって大変励みになっており、高速道路を利用した観光客の皆様を気持ちよくお迎えするためにも、継続して活動していく。

平成20年度より「ラブアースクリーン」に加入したほか、平成27年2月には、一般財団法人日本そうじ協会より「街そうじ賞」を受賞した。

また、平成15年8月より奈井江町の「ないえ産業祭り」に参加し、出店から会場設営の準備、片付けまでのお手伝いを実施した。出店では各作業所がお世話になった地域の名産品を販売、得た益金のすべてを社会福祉協議会に寄付している。

他にも、平成6年より奈井江町に住む独居老人・高齢者住宅の除雪ボランティアを実施するなど、多岐にわたる社会貢献活動を実施している。



国道12号線のゴミ拾い



街そうじ賞受賞

事例
22

岩手県

桜づつみ草刈り活動～多年に亘っての草刈り作業～（有限会社 新江建設）

新江建設では、平成17年から毎年、お盆前に北上市の桜並木堤防の環境美化・保全ボランティア活動（堤防内の草刈り）を行っている。

活動は、地域住民の方々や花見・散歩・ジョギング等に訪れる方々が気持ちよく通っていただけるように毎年実施しており、令和5年度で19回目となる。作業延長は、600m（和賀川沿い市道等）で、両肩・法面等の除草・清掃等を行い、社員一丸となって継続している。

事例
23

宮城県

継続的な道路清掃活動（日広建設 株式会社）

日広建設は昭和46年の創業以来、「Road to the Future」（未来へと続く道）をテーマに、人・地域・企業が共に成長する社会を創造することを理念とした活動を展開し、社屋前を一般県道越河角田線が通ることから、平成29年3月から「宮城県スマイルロードサポーター」の認定を受け、L=550m区間の道路清掃の環境美化活動を継続して行っている。

このことにより、令和5年11月に「令和5年度みやぎスマイルロード・リバープログラム功績者宮城県知事表彰」が贈呈された。

また、多くの市民が来庁の際に利用する角田市役所庁舎南側駐車場の美化活動にも取り組み、同庁舎南側駐車場の防塵舗装と区画線設置工事を行った。

従来は敷砂利のため窪みや水たまりが多く、駐車すると車と履物が汚れるとの苦情が多く寄せられていた市役所の利用者に快適な環境を提供したことで、多くの市民から感謝された。

上記の市役所駐車場施設事業により、令和5年10月3日に「市政功労特別表彰」で角田市長から感謝状が贈呈された。



スマイルロードサポーター活動



角田市役所駐車場整備活動事業

事例
24

山梨県
御伊勢山の維持管理作業（株式会社 桑原組）

桑原組は、所在地である大月市猿橋町藤崎区小田自治会と、大月市猿橋町藤崎地内にある藤崎区有林（通称 御伊勢山）の森林育成・維持・管理についての協力（ボランティア活動）についての協定を結び、例年5月から6月頃に維持管理作業（除草等）を行っている。



除草作業の様子

事例
25

岐阜県
継続的な道路の美化清掃活動（青協建設 株式会社）

青協建設は、関市青年団OB（関市推進青年協議会）を母体として地域の発展に貢献することを目的に設立された会社である。ISO14001を始めとする環境に配慮した計画や目的を策定して運用管理に平成12年頃から努めてきた。

その中に会社の経営理念に基づく地域貢献活動として、20年ほど前より月に一度の環境美化活動として、会社付近（東海北陸道関IC付近を含む）のゴミ拾い（ボランティア活動）を行ってきた。

こうした活動は、多くの地域住民から感謝されており、平成18年には、環境美化推進により、岐阜県知事及び中日本高速道路から、それぞれ感謝状を受領している。



清掃活動の様子

事例
26富山県
掃除DEあいさつ運動（近藤建設 株式会社）

近藤建設は、「掃除」と「挨拶」を組み合わせた「掃除DEあいさつ運動」を、平成27年7月から毎月第1日曜日8時より、本社と各現場の周辺において実施している。

「掃除」による美化活動のみならず、活動地域の方や通学中の学生との「挨拶」活動を通して、美しく住みやすい街づくりに貢献できる機会にもなっており、地域の人が美しい街で、健康的に暮らせること、持続可能な暮らしができることを目標に、今後もこの「掃除DEあいさつ運動」を継続していくこととしている。

また、令和5年4月に入社した総務部の女性社員は、通学中に「掃除DEあいさつ運動」を実際に見て、近藤建設に興味を持ったというエピソードもある。



掃除DEあいさつ運動

事例
27富山県
海岸清掃ボランティア活動（株式会社 関口組）

関口組は、平成26年より、毎年8月に地元魚津市で開催される「たてもん祭り」や「じゃんとこい魚津まつり海上花火大会」に合わせて、開催前に会場周辺の海岸に漂着した流木などを撤去及び清掃するとともに周辺道路の美化清掃を行い、来場者に少しでも気持ちよく観覧してもらえるようにしている。



海岸清掃

事例

28

埼玉県

継続的な献血活動（一般社団法人 埼玉県建設業協会 さいたま支部ほか10支部）

埼玉県建設業協会では、埼玉県赤十字血液センターからの協力依頼に応じて、令和3年度から各支部主催による献血活動を実施している。

さいたま支部ほか10支部では、令和3年度から令和5年度までに、28会場において、総勢2,090名の皆様から御協力をいただき、献血活動を実施してきた。

埼玉県赤十字血液センターによると、コロナ禍においてのイベントの中止や延期、企業の在宅勤務など、予定していた献血の実施が出来ず、血液在庫量の安定的な維持が困難な状況が続いていたとのこと。

このような状況の中、感染対策を講じた上で、各支部会員の皆様に趣旨を十分御理解いただき、各支部ともに目標献血量の達成に努力した。

各支部ともに、地域建設業と地域社会の健全な発展に資する事業活動を展開し、社会貢献に努めている。



さいたま支部での実施状況

埼玉県建設業協会各支部実施状況

団体 献血会場 (会場市町村)	献血実施日	受付 人数	200	400	不採 血人数
			mL 協力 人数	mL 協力 人数	
さいたま支部 埼玉建産連会館 (さいたま市南区)	R.3/11/12	70	2	55	13
	R.4/10/20	63	2	47	14
	R.5/6/2	57	2	46	9
	合計	190	6	148	36
児玉支部 本庄市民文化会館 (本庄市)	R.3/8/26	76	7	65	4
	R.4/8/24	82	5	67	10
	R.5/9/22	98	10	78	10
	合計	256	22	210	24
杉戸支部 埼玉県杉戸県土整備事務所 (杉戸町)	R.4/9/8	77	3	55	19
	R.5/9/7	69	4	62	3
	合計	146	7	117	22
川越支部 川越西文化会館(マルチ) (川越市)	R.3/10/15	70	5	60	5
	R.4/6/8	87	5	64	18
	R.5/6/16	81	4	70	7
	合計	238	14	194	30
大里支部 埼玉県熊谷県土整備事務所 (熊谷市)	R.4/1/12	93	2	84	7
	R.5/1/18	137	6	122	9
	R.6/1/11	86	4	73	9
合計	316	12	279	25	

団体 献血会場 (会場市町村)	献血実施日	受付 人数	200	400	不採 血人数
			mL 協力 人数	mL 協力 人数	
秩父支部 埼玉県秩父県土整備事務所* ベルク秩父影森店** (秩父市)	R.4/7/6*	60	4	46	10
	R.5/6/6**	50	4	41	5
	合計	110	8	87	15
朝霞支部 埼玉県朝霞県土整備事務所 (朝霞市)	R.3/11/16	65	4	53	8
	R.4/11/16	71	2	59	10
	R.5/6/21	61	0	53	8
合計	197	6	165	26	
飯能支部 司産業株式会社 (入間市)	R.4/6/21	52	4	43	5
	R.5/6/27	63	2	44	17
	合計	115	6	87	22
比企支部 埼玉県東松山地方庁舎 (東松山市)	R.4/4/28	82	2	63	17
	R.5/4/24	65	2	61	2
	合計	147	4	124	19
北埼玉支部 小川工業株式会社* 埼玉県行田県土整備事務所** (行田市)	R.3/11/12*	74	5	60	9
	R.4/6/23**	85	5	71	9
	R.5/7/3**	72	5	60	7
	合計	231	15	191	25
北本支部 丸和工業株式会社 (北本市)	R.4/7/13	70	1	57	12
	R.5/7/19	74	1	54	19
	合計	144	2	111	31

事例
29

山梨県
継続的な献血活動（一般社団法人 身延建設業協会）

身延建設業協会では、地域の社会貢献活動の一環として献血活動を実施した。
 山梨県赤十字血液センターの協力を得て、献血バスを出張してもらい地域の社会貢献活動の一環として継続的に献血活動を実施している。
 会員企業の社員だけでなく、一般の方にも参加してもらえるよう身延町の広報等、広く周知を行い、実施日は、執行部が会場設営や駐車場の整理を行い、運営を行った。
 令和5年10月30日に、山梨県赤十字血液センター所長より感謝状が手渡された。



R5.8.4 献血



R5.10.30 感謝状贈呈式

事例
30

山梨県
児童養護施設の整備活動（一般社団法人 富士・東部建設業協会 青年部会）

富士・東部建設業協会 青年部会では、「児童養護施設 くずはの森」（社会福祉法人 葛葉学園）のグラウンド及び建物外構、周辺の美化整備活動を実施した。この活動は平成21年より毎年継続しており令和5年で14年目である。
 実施内容は、グラウンドの整地（2トントラック、H鋼を使用）、小石・雑草除去、高木・樹木の伐採・剪定、敷地内の雑草刈り、落葉の撤去、隣地河川敷の雑草刈り、外周フェンスの雑草撤去。
 過去にはグラウンドの土の補充、グラウンドの排水を円滑にするための土削り、不要となった遊具の廃棄処理を行った。
 継続的かつ定期的に活動することで実効のある成果に繋がっており、私達もボランティア先の施設の方に喜んでいただけていると実感している。今後も可能な限り継続していきたい。



整備活動の様子

事例

31

山口県

継続的な献血活動（山口県建設業協会 長門支部）

山口県建設業協会 長門支部では、令和2年度に新型コロナウイルス感染拡大で血液の量が足りなくなっている状況を知り、地域貢献、社会貢献への一環として、会員企業約20社に400ml献血への協力を呼びかけたところ、17社から71人も参加があった。

令和3年度以降も、依然として献血者が不足していることから、献血奉仕活動は継続して実施しており、これまでの実績としては、下記のとおり4年間で合計174人が協力してきた。

また、山口県建設業協会が作成している社会貢献活動広報誌「ピラー」の取材時において、安藤繁之支部長からは、「長門は地元の繋がりが強くお互いの声が届きやすいので、このような時世でも協力しながらできることを行っている。特に若い人たちが一丸となって、地域を盛り上げてくれている。今後も当たり前のこととして、積極的に地域のための活動をしていきたい」とのコメントをいただいた。

【これまでの実績】

令和2年：71人 令和3年：28人 令和4年：55人 令和5年：20人 合計174人



事例

32

北海道

福祉除雪活動（北土建設 株式会社）

「福祉除雪」は、札幌市社会福祉協議会が主催して高齢の方や障害のある方が通院や買物などの外出時に支障となる、道路に面した出入り口部分（間口）と玄関先までの通路部分（敷地内）の雪を地域協力員が除雪する事業である。

地域協力員は市内各地でご近所の方々、企業、団体など幅広い層で構成されている。

北土建設は平成21年度から地域協力員として活動を行っており、令和5年度は計14回出勤し、多い時には26回（平成25年、26年）に及んだ。

地域協力員には札幌市社会福祉協議会より、活動費が支払われるが、北土建設はその全額を同協議会を通じて「社会福祉法人北海道 いのちの電話」に寄付している。

また、社屋近隣を通行する歩行者の転倒事故を未然に防ぐため、歩行者用砂箱を設置し、砂散布等を行っている。



福祉除雪活動中

事例
33

福島県
地域小学校のプール清掃ボランティア活動（みほた建設 株式会社）

みほた建設は、地域社会に貢献するための活動として、令和2年から毎年、地元の郡山市立桜小学校において、夏季に児童が水泳授業や夏休み中のプール開放で使用するプールの清掃ボランティア活動を行っている。清掃には高圧洗浄機を使用し、できるだけ綺麗にして子供たちに気持ちよく泳いでもらうようにしている。

この清掃活動では、桜小学校の児童から感謝の手紙を毎年いただいており、社員にとってボランティア活動の大切さを実感する良い機会となっている。

みほた建設では、この清掃ボランティア活動を通して、地域から信頼され必要とされる企業となるよう、これからも清掃活動など社会貢献をしていきたいと思っている。



小学校のプール清掃状況



小学生からのお礼の言葉一覧



小学生からのお礼の言葉や写真

地域貢献

みほた建設

◆桜小でプール清掃 みほた建設（郡山市、高橋忠吉社長）は26日、郡山市立桜小学校のプール清掃活動に取り組んだ。地域貢献の一環で、地元小学生がプールを安全に利用できるように毎年行っているボランティア活動。社員ら約10人が参加した。作業は一日をかけて実施。高圧洗浄機やブラシなどを用いて、堆積した泥やごみを除去し、底や壁の汚れなどを清掃した

福島建設工業新聞 R4.6.1

地域貢献

みほた建設

◆毎年の桜小プール清掃 みほた建設（郡山市、高橋忠吉社長）は23日、郡山市立桜小学校のプール清掃活動を行った。毎年5月ごろに、児童がプールを安全に利用できるよようにとの思いから行っているボランティア活動。今年度は社員約10人が参加した。高圧洗浄機やブラシなどを使い、プール底やプールサイドなどを清掃。堆積した泥やごみを除去した。

福島建設工業新聞 R5.5.29

事例

34

山梨県

小中学校の就学環境〈校庭〉整備（昭和建設 株式会社）

昭和建設では、塩山建設業協会の管内にある甲州市、山梨市内の小中学校の校庭の整備を行っている。（グラウンド平坦性の確保、混合土の補充、小石やゴミの除去、フェンス等の修繕など）

地域の将来を担う子供たちの、学校生活が安全で安心に行えるよう建設業者としてのスキルを活かしたボランティア活動を実施している。

また、作業状況をお子たちに身近に見てもらうことにより、建設業への理解と関心を深めてもらう機会になればとの思いもある。

学校側の話を見ると、学校の運営も厳しく、なかなかグラウンドの整備等も大変とのことだが、幸い昭和建設にはグラウンドの整備の経験や適合する機械等も自社で所有しているため、社会貢献活動の一環として子供の健やかな成長と学校生活の充実を願い当該の活動を行っている。



校庭の整備の様子

事例

35

愛知県

地元チャリティーイベントでの地域貢献活動（株式会社 加藤建設）

加藤建設の地元、愛知県海部郡蟹江町には、特定非営利活動法人「にこにこママネットワーク」という子育て支援団体がある。

偶然かかわりがあり、当団体のチャリティーイベントへの参加を通じて、地域貢献を進めている。具体的には年に2回、5月と10月に「にこにこママフェスタ」が開催される際、子供服などチャリティーフリーマーケットの物品運搬や会場設営など準備ボランティアを行ったり、地元で根差した地域建設業として、子供たちに楽しみながらチャリティー募金をしてもらうための「カラーコーン輪投げ」や「カケヤでゴルフ」、「射的ゲーム」などの縁日ブースを出展している。

加藤建設は平成28年5月の第4回イベントから参加しており、ブースで得た収益については、全て当団体にチャリティー募金として寄付し、東日本大震災などの自然災害に関係する子育て支援及び地元蟹江町の子育て支援に活用していただいている。

間接的ではあるが、災害被災地や地元地域の子育て支援に寄与していると実感しており、今後も継続して協力していきたいと思っている。



チャリティーフリーマーケットの物品運搬



カトケンブースの「カケヤでゴルフ」

石橋建設工業は、SDGsを企業行動に繋ぐべく様々な取り組みを行っているが、建設業を営む者として、建設工事の中で実行性のあることを実践すべきであると考え、県道の改良工事を「SDGs推進モデル工事」と位置づけて実践できることを行い、建設業全体でのSDGs推進に貢献した。

主な実践内容（番号はSDGsゴール番号）

- 1、貧困をなくそう
 - ・寄付型自動販売機の現場事務所等への設置による、犯罪被害者支援（平成31年3月～）
- 3、すべての人に健康と福祉を
 - ・専門家による安全管理指導や、周辺地域のカーブミラー清掃など（平成31年3月～）
 - ・近隣保育園へ横断歩道旗を寄付、及び警察署員による横断学習（令和5年10月）
- 4、質の高い教育をみんなに
 - ・近隣保育所の園児の重機試乗、ドローン運転見学、重機お絵描き（令和4年5月）
 - ・近隣高校美術部のデザインで、園児による工事完成前の道路上へのお絵描き体験（令和5年10月）
 - ・工事関係者によるチャリティーゴルフやパークゴルフを開催し、地元本宮市にSDGs推進への寄付（令和4年7月、令和5年12月）
 - ・若手社員の技術力向上を図るため、当該工事を教育モデル工事とした（平成31年3月～）
- 5、ジェンダー平等を実現しよう
 - ・女性の建設分野への参画を広げるため、女性の監理技術者を積極的に配置（令和5年4月～）
- 9、産業と技術革新の基盤をつくろう
 - ・ICTの内製化（平成31年3月～）
 - ・リモートによる現場確認の省力化（平成31年3月～）
- 13、気候変動に具体的な対策を
 - ・エコリサイクル認定製品使用（粉せっけん、コンクリート製品）（平成31年3月～）
- 14、海の豊かさを守ろう
 - ・流域内の油流出事故に備えたオイルマット常備とオイルフェンス確保（平成31年3月～）
- 15、陸の豊かさも守ろう
 - ・工事現場周辺の清掃や、車両のアイドリングストップ徹底（平成31年3月～）

【啓蒙看板】

- ・SDGsの推進を図るため、現場周辺3箇所に啓蒙看板設置（令和4年9月）



チャリティーゴルフ開催で市の SDGs 推進へ寄付



保育園園児と高校生とによる路上お絵描き

事例
37

鹿児島県
地域の環境美化ボランティア（株式会社 グリーンテック）

グリーンテックでは、10年ほど前から施工全現場付近で外来種駆除等環境保全活動を実施している。

また、世界自然遺産推進共同体に参加し、「希少種及び自然環境の保護」、「世界自然遺産に関する普及啓発、調査・研究等」、「希少種及び自然環境の活用を通じた地域貢献・地域振興」などの活動や、絶滅危惧種・アマミノクロウサギ交通事故防止キャンペーンでの街頭呼びかけ、アマミノクロウサギ交通事故防止勉強会等を実施し、環境保護、環境汚染の予防に対して積極的に活動している。

「地球環境を守るかごしま県民運動推進会議」、「あまみSDGsアワード」等で表彰された。

また、あまみSDGs推進パートナーへ参加し、従業員のフィジカルやメンタル、ワークライフサポートの実施各種イベントへの積極的な参加、寄付や、地域の学校の安心メールへの協賛などSDGsに関する取り組みも多岐に亘り続けている。



外来植物駆除 自社施工現場付近



外来植物駆除 環境省・奄美市

その他

事例
38

神奈川県

関東大震災100年「震災パネル展・震災記念碑設置」

(一般社団法人 神奈川県建設業協会 小田原支部)

神奈川県西部地域は100年前に起きた関東大震災の震源地であり、大きな被害を被った。その後、地域の人々の懸命な努力により復旧や復興が行われ、今日に至っている。

しかしながら、東京や横浜の復興などは良く知られているが、県西部地域の復旧・復興がどのように進んだのかは良くまとめられていない。そこで神奈川県建設業協会 小田原支部が事務局となり、土木学会、小田原市、地元高校や商工会議所などと震災100年事業として実行委員会を立ち上げ、パネル展や記念碑の設置を行うこととした。

この結果、当時災害の復興に現在、当協会の会員も携わっていることが解かり、地域建設業の果たしてきた役割や防災意識の向上などを多くの市民に伝え、建設業のイメージアップを広くPRすることができた。

震災パネル展

日時 令和5年9月1日～3日

場所 小田原市市民交流センター 第5～7会議室

内容 土木学会調査団や地元高校同窓会、鉄道研究会などがまとめた約800枚の写真を、大きく「被害状況」、「災害復旧」、「災害復興」にパネルを分けて展示し解かりやすくした。特に当時、建設機械などがない時代に、ひたすら人力による復旧の状況写真が残されており、入場者の関心が高かった。

白糸川橋梁記念碑設置事業

日時 令和5年9月1日

場所 小田原市根府川 地滑り崩壊現場

内容 関東大震災による直接被害としては最大約400名の方々が亡くなった、白糸川橋梁の現場において、土木遺産である同橋梁の重要性とともに、災害の状況を刻んだ記念碑を多くの市民が見える場所に設置した。



記念碑の除幕式



震災パネル展



神奈川県新聞 R5.9.2

事例
39

建設業ふれあい活動

岐阜県

建設業イメージアップへの出前講座の実施（一般社団法人 郡上建設業協会 青年会）

中山間地域である郡上市における建設業の果たす役割は大きく、近年の異常気象により発生する局地的集中豪雨や豪雪等から、市民生活の安全・安心を守り、地域社会の生活環境や産業振興に不可欠なインフラ整備の担い手としての期待もこれまで以上に大きくなっており、地域に根付いた基幹産業として、健全な運営を図っていくための活動が望まれている。

そこで、郡上建設業協会 青年会では、建設業の未来の担い手確保のため、郡上市内の小中学生を対象に建設業イメージアップ活動を行っている。令和元年度と令和3年度には、小学生を対象とした「はたらく車」乗車体験を開催した。実際に建設現場で働く車を体験してもらうことで、地域の未来を担う子供たちに建設業の仕事を知ってもらい、興味をもってもらえることを期待し、今後も継続していきたい。

また、令和5年度には、各中学校に協力していただき、「グループワーク」を企画した。

建設業と中学生の交流を通し、グループワーク前に生徒たちが感じている建設業界への思い（不安なこと・疑問点等）の聞き取りをするとともに、悪いイメージを解消し、さらに建設業の魅力を伝えることで建設業界への就職促進や就職後のミスマッチを防ぐことを目的に実施した。この活動を通して、建設業に対する誤解を解消することができ、建設業が中学生にとって将来への選択肢の一つとなった。

Before	After
作業服をきちんと大事に使って	支給された服をだいたいの方が大事にしている 夏用と冬用で分けて支給される
自分で持っている車は軽トラック (ハイエース イスズミトラック)	①トラック ②軽トラックはハイエースが、会社の専任仕事をする 半々 仕事用とプライベートで使うのは分ける 男はほとんど家にない、若い人の世帯は多いが けが防止も兼ねて、夜まで走る 事故もつながらから集約化する 建設業の方が集中力がすごい 仕事の人とのコミュニケーションをとるために飲みに行くとある、飲まない人はいない
コンパは指針がわかるのを使って	
日焼け気にしなさんな	
集中力すごいぞ (細かい作業 ちとでさる)	
仕事終わりにビール飲んで	
(アサヒスーパードライ)	

中学生の建設業に対するイメージ



グループワークの様子



建設業の仕事内容や魅力を紹介



グループワークの様子

事例
40

建設業ふれあい活動

北海道

地域の小学生を招いた現場見学会（株式会社 西村組）

西村組では、令和3年より、施工している工事現場の近隣小学校の児童を招いて、現場見学会を行っている。地元で行われている工事現場を少しでも身近に感じてもらい、建設業に関連する重機や機械に直接触れて、建設業の魅力を多くの小学生に知ってもらうことを目的として毎年開催している。令和5年度は、8月に町内のゆうべつ学園5年生21人をサロマ湖第1湖口に招き、湖口に設置されているアイスブーム（防氷堤）の役割や歴史について説明し、地元サロマ湖の養殖業への被害を防ぐ役割があること、地域に役立つ仕事であることを知ってもらう機会を創出している。また、建設機械やドローンの操作のみならずAR技術を用いた工事完了予定画像をタブレットで見せるなど、体験型のイベントも併せて実施することによって建設業の楽しさをより実感できるよう工夫した取り組みを実施している。

さらに、9月から10月にかけて町外の6小学校延べ174人の小学生を各地で施工している現場へ招待し、ゆうべつ学園の小学生を招いたサロマ湖第1湖口の現場見学会と同じように、工事の目的や当該工事が地域へどのように関わっているかなどをわかりやすく解説し、写真からも伝わるように参加した小学生の表情も生き生きとしていた。イベント後は子どもたちからたくさんのお手紙をいただいた。

西村組では、MISSIONとして掲げる「“築く” 人を、モノを、豊かさを」に沿った、社会貢献や建設業の魅力を発信している。

【令和5年8月29日】	湧別町立ゆうべつ学園	5年生21人 (サロマ湖漁港外1港アイスブーム補修その他工事) (サロマ湖漁港西外防波堤工事) (サロマ湖漁港-4.5m航路浚渫工事) ※3現場合同
【令和5年9月4日】	雄武町立雄武小学校	4年生21人 (元稲府漁港-3.5m岸壁改良その他工事)
【令和5年9月5日】	北見市立常呂小学校	4年生16人 (サロマ湖漁港航路護岸建設その他工事)
【令和5年10月2日】	紋別市立紋別南が丘小学校	4年生23人 (紋別港物揚場改良その他工事)
	紋別市立渚滑小学校	3・4年生11人 (紋別港物揚場改良その他工事)
【令和5年10月4日】	紋別市立潮見小学校	4年生54人 (紋別港物揚場改良その他工事)
【令和5年10月18日】	紋別市立紋別小学校	4年生49人 (紋別港物揚場改良その他工事)



現場見学会の様子①



現場見学会の様子②

事例
41

建設業ふれあい活動

福島県

市内中学校での出張職場体験学習会の開催（株式会社 小野中村）

小野中村では、令和元年より年に一度のペースで、市内の中学校へ出向き、職場体験学習会を開催している。

令和5年度には、相馬市立中村第二中学校にて学習会を開催した。

建設業に対する理解を深めてもらうために、実際に測量機器を使用して測定を行ったり、工事現場で着用する安全ベストや落下防止用ハーネスなどを身につけて体験していただいた。生徒からは、

- ・リアルに建設現場を感じ取ることができた
 - ・建設業に興味がわいた
- 等の感想もいただいた。



測量体験



測量体験

事例
42

建設業ふれあい活動

山梨県

地域小学校での建設機械乗車体験（金山土建 株式会社）

金山土建では、小学校の国語の授業「はたらく自動車」の一環として、毎年小学校からの依頼を受け、建設機械の乗車体験を実施している。建設機械はバックホウ0.10 m^3 、0.25 m^3 、ホイールローダー1.30 m^3 の3台を使用し、参加児童全員にすべての建設機械に乗車できるよう配慮しながら、それぞれの機械の特徴や機能を体験してもらっている。また、体験後には質問等を受けて、重機の機能や建設業の仕事内容などへの理解を深めてもらえるように努めている。この体験を通して、授業の一部としてだけでなく、公共工事や除雪活動、さらには建設業への興味を持ってもらえるよう毎年実施している。今後、子どもたちが建設業を職業選択するきっかけとなり、地域産業の活性化の一助となるようこの活動を継続して実施することに努めていく。



バックホウ0.25 m^3 乗車体験



ホイールローダー乗車体験

事例
43

建設業ふれあい活動

長野県

「人権と平和の花・カンナ」の植栽を通じた

地域建設業からダイバーシティへの取組み（高木建設 株式会社）

1. 取組みの背景

令和2年3月、長野人権擁護委員協議会様との縁から、「人権と平和の花カンナ」を植える活動があることを知った。広島原爆跡地に最初に咲いた花で、「人権と平和の花」と称され、広島県から全国各地に広がっている活動である。高木建設が取り組んでいた人権教育や障がい者雇用の促進にあわせ、コロナ禍に真っ赤なカンナの花で地元住民を元気づけたいとの思いでこの活動をすすめた。

令和2年から始めた植栽活動は、令和5年からは高木建設のみならず、地元企業や小学校、保育園にまで広がり、地域の「人権と平和」を考える機会に繋がっている。

2. カンナから広がる活動

このカンナは冬越しが難しい株（球根）で、霜が降りる前に掘り起こして地中深く（1m以上）に埋めて保管しないと株は腐って絶えてしまうため、冬の間保管場所を確保し、春が来たら球根を取り出し各所に配布している。1つの場所から地域に広がる（つなぐ）ことを大切にしている。

植栽1年目（令和2年）は、女性の人権をカンナに願いを込めて、女性社員主体で植栽を行い、水くれや植栽後の草取りは社員が可能な限り関わった。大切に育てた甲斐がありカンナは見事に花を咲かせた。沿道を通る地域の方々からは「キレイだね〜」「元気が出るね〜」というお声をいただいた。社員からは「素敵な活動ですね!」「管理は大変だけど、地域の皆さんから声をいただく嬉しい」との声が上がった。

2年目以降（令和3年〜）は地元の方々や植栽活動を行った。長野市内の通信制高校（SNEC/祥雲高等学院）との植栽活動では、生徒は大人と接することや就職に対して不安を抱えていると先生方からお話をうかがっていたので、野外活動を通してそのような気持ちを少しでも払拭して欲しいと願い、毎年共同して植栽活動を行っている。

植栽後は、生コンクリートで手形を作るワークショップや木工教室なども取り入れて、楽しい時間を過ごしてもらおう工夫をしている。

4年目（令和5年）には地元企業様から株を分けて欲しいと要望を受けた。また、地元小学校の特別支援学級（1校）、保育園（2園）からもお声掛けをいただいた。

3. 取組みの成果と反響

この活動がきっかけとなり、通信制高校とは建設現場見学会、インターンシップの受入れを行い、建設業の業務内容を知ってもらっている。社員や協力会社の職人と話をする機会を設けることで、建設業の新しい技術や魅力を伝えている。

実際に障がい者雇用に繋がった事例もある。

私たちが「出来る」・「出来ない」と決めつけるのではなく、個性に合わせて出来る幅を徐々に広げている。また、特別扱いをするのではなく普段の建設業の中で共に働く環境づくりを進めている。雇用した社員は、今では資格を取得し自信が芽生え、表情が豊かになった。また率先して、地元で困っている方の手助けをする場面が増えた。

活動は会社HPやSNSへの掲載、また新聞で取り上げていただいたこともあり、令和5年からは植栽活動が地域に広がっている。地元の方からも「新聞見たよ!」「高木建設さんは良い活動をしているね!」「私も株を分けて欲しい!」とコミュニケーションの場が増え、このようなPRが企業イメージUPと建設業の敷居を低くできる活動になっている。

4. まとめと今後の展望

この「人権と平和の花」の活動が更に広がり、この地域が真っ赤なカンナに埋め尽くされる日を夢見ている。

令和6年の長野市保育園長会でこの活動の報告と植栽募集を検討している旨をご連絡いただいております、更に活動が広がればと思う。

通信制高校とは今後も継続し、雇用の確保に繋げていきたいと考えている。

社員に対しては、この楽しい気持ちを育ててワークエンゲージメントの醸成や社員同士のコミュニケーションによって健康経営面（メンタルヘルス）の向上、離職の防止に繋がることを期待している。

今後も、この活動を通して、建設業を知ってもらい、魅力を伝える機会を増やしていきたい。



学生と球根の植栽



開花したカンナ

事例
44

建設業ふれあい活動

富山県

地域の子どもたちに建設業について知ってもらう機会を提供（株式会社 斉藤組）

斉藤組では、中学生の体験学習である「14歳の挑戦」を平成21年から受け入れている。

工事看板の作成やドローンによる測量体験を実施。5日間の職業体験を通し、規範意識や社会性を高めることはもちろん、建設業について知ってもらう機会となっている。

また、他にも近年では高校生や大学生を対象にした「フィールドスタディ」や「地域づくり学習」を行うなど様々な活動を実施している。

高校生と行ったフィールドスタディでは、実際に現場を見学してもらい、建設業の抱える人材不足等の課題について一緒に考え、意見交換会を行った。

大学生との地域づくり学習では、大学生の企業訪問やヒアリングなどを通して課題を発見し、SDGsの観点を踏まえ、「もっとこうしたら事業所や地域が良くなる」というアイデアの発表を行った。



高校生とのフィールドスタディ



大学生との地域づくり学習

事例
45

建設業ふれあい活動

山口県

中・高校生への建設業の魅力を伝える出前授業「建設ゼミナール」の実施

(住吉工業 株式会社)

山口県建設業協会や山口県土木建築部を含む産官学連携の「山口県地域を支える建設産業担い手確保・育成協議会」での人材確保対策事業の一環として中高校生向けに建設業の魅力を伝える出前授業「建設ゼミナール」を行っている。

実施に当たり、山口県建設業協会の会員企業の中から、若手経営者の方に講師への協力を呼びかけてきたが、住吉工業においては、令和5年度までの過去10年間と長期にわたり23回と積極的に講師を務めて頂いた。

住吉工業は女性や外国人など新たな担い手にも積極的に目を向け、AIやICTの登場により働くすべての人々が安心して働ける環境の整備を進めており、100年続く企業を目指している。

【過去3年間の実績】

令和3年：6校 153人、令和4年：9校 274人、令和5年：8校 301人、3か年計：23校 728人

【直近の講師実績】

日時：令和6年1月18日（木）

場所：山口市立阿知須中学校

対象者：1～2年生

合計 93人



事例
46

広報ツール・アイテムの活用による広報活動

新潟県

除雪 PR ポスターの作成・配布（一般社団法人 新潟県建設業協会 十日町支部）

道路の除雪作業は、地域での安全で快適な生活を維持するため、また地域経済の発展を支える重要な役割を担っている。しかしながら、近年、除雪オペレータの高齢化に加え、新たな担い手不足も進み、将来的な除雪体制の確保に懸念が生じている。この問題解決に向け、新潟県建設業協会 十日町支部では、新潟県十日町地域振興局、十日町市、津南町と協同で、冬期道路交通の確保や担い手確保の取り組みとして、「道があるから、故郷（ふるさと）がある。」をキャッチコピーに、毎年PRポスターを制作し、十日町市・津南町すべての小・中学校へ配布している。

学生に直接アピールすることで、建設産業に注目してもらえきっかけができており、十日町支部では、今後も地域建設業の組織力を生かして、こうした活動に積極的に取り組むことで、建設業に対する関心を高め、入職促進に貢献する取り組みを実施していく。



R5



R4

事例
47

広報ツール・アイテムの活用による広報活動

岡山県

マンガ冊子「建設の仕事」の発刊（岡山県建設業協会 岡山西支部）

岡山県建設業協会 岡山西支部では、マンガ冊子『造る、守る、残す 建設の仕事』を刊行した。本書は、岡山県内の工業高校、特に建築・土木系学科に所属する高校生を対象に建設業の仕事の種類や内容、そしてそこで働く人々の姿を通して、「やりがい」を感じていただきたいとの思いから企画したものである。高校生が気軽に読めるようマンガにしており、建設業への入職者が減少するなか、本書をきっかけに、一人でも多くの学生の方が建設の仕事に関心をもってもらい、地元岡山で建設業に携わっていただきたいと考えている。



山陽新聞 R5.5.31



マンガ冊子「建設の仕事」